

# 大学の講義の分析

## ——留学生の聴解力養成の為の基礎分析——

早川幸子  
鎌田倫子

### 1 はじめに

留学生は、読む・書く・聴く・話す4つの日本語能力を要求されるが、中でも、日本人学生と同じレベルの理解力を要求されるので、講義の聴講は特に難しいものになっている。書き言葉的な内容と話し言葉的な要素を合わせ持つ講義の特徴はどのようなものか、語彙のレベルと談話及び文のレベルで分析し、聴解力養成のための基礎資料としたいと思いつつ次のようなねらいで基礎的な分析を試みた。

- 1) 講義で使用される語彙はどのような種類のものが多いか、それは教科によってどのような違いがあるか。
- 2) 講義を理解するためには、どの程度の難易度の語彙が必要か。実際の講義から使われている一般的な語彙を拾い出しリストを作る。
- 3) 講義の中に話し言葉的な特徴がどのように表れているか。
- 4) 文の論理展開を理解したり、予測したりする手がかりになる言葉は何か。
- 5) 講義の中の文は長さ、文構造、スピードの点でどのような特徴があるか。

金沢大学で行われている様々な分野の8つの講義を録音し、その初めの20分を書き起こし、語彙レベルと談話および文のレベルから分析した。語彙の分析は各講義の初めの300語を採集し分析した。文の分析は、各講義の初めの500文節を採集して分析した。語彙の分析は鎌田、談話及び文の分析は早川が担当した。

### 2 語彙の分析

#### 2-1 品詞による分析

手始めに、文中の語彙を品詞分類し、各講義にどれぐらいの割合で出現するかを見ることにした。講義から語彙を採集する時は、助詞を除いてほとんど全ての語を取り上げたが、この章での語彙の分析は文を理解するのに必要最小限のものに限ることにした。そこで先ず、採集した語のうちから、話し言葉的な性格を持つフィラーと、形式名詞、形式名詞を含む慣用表現、文と文の関係を表す言葉など、後段で取り上げるものを外した。

次に、その語自体の実質的な意味を持たず文脈で意味の決まる指示詞、疑問詞、間投詞を除外した。ここまでの作業で残った品詞は次の通りである。

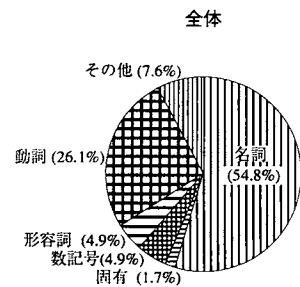
- a 形容詞                      ar 連体詞                      d 副詞  
 n 名詞 (f, nf 数詞を含む言葉      np 固有名詞      s 記号)  
 v 動詞 (vh 動詞+補助動詞      vf 複合動詞)

最終的には、文の理解に決定的に重要な述部を形成する、名詞・形容詞（な形容詞を含む）・動詞の三つの実質語に絞って延べ語数による分類を試みた。名詞、動詞はより詳しく分類するために更に細かく下位分類してある。

名詞の分類では、接頭語「お」「ご」がついている語「お話」「ご承知」等は接頭語を除いて数え、「ぐらい」「ごろ」は「くらい」「ころ」と同語として数えた。動詞の活用変化はすべて終止形で代表して数えたが、名詞として使われている連用形は、形は活用形であるが、初級の教科書にはないことと、動詞と名詞では働きが大きく異なることから、これを区別して名詞として数えた。

まず品詞のそれぞれの講義の中に占める割合を調べてみたが、これは講義によってほとんど差がなかった。そこで総数の品詞別割合（図1）から全体の傾向を見ると数字や固有名詞を含む名詞が全体の過半数、61.4%を占め、次が動詞で26.1%、形容詞がわずかに残りを占めるという構成になっている。グラフでは数詞と記号を合わせ、最終段階で外した副詞と連体詞を「その他」に入れてある。講義によって固有名詞が多いもの、数字や記号が多いもの等、細かい違いはあるが、基本的には同じ傾向で、これが講義に見られる文の基本的な語の割合であることがわかる。

図1 実質語の品詞別語数



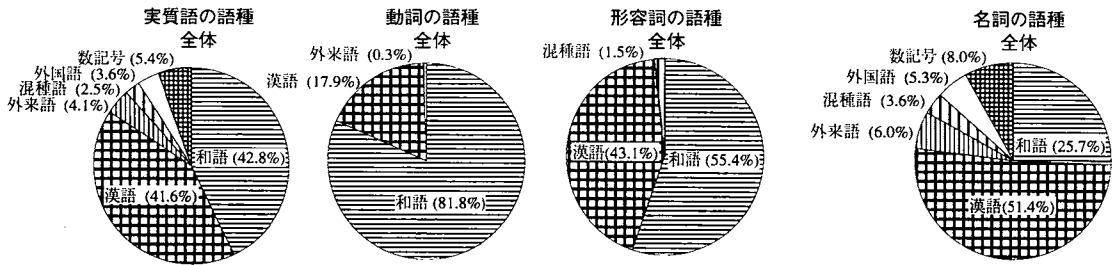
実質語の品詞別分類から、講義の文でも、従来の語彙調査に見られるように、名詞と動詞が一番頻度が高く重要である事が分かった。この二者で実質語全体の87.5%を占め、文の意味の理解は、名詞と動詞の理解にかかっているとと言っても過言ではないだろう。各講義の特徴は名詞、動詞のより下位の分類によって明らかになってくると思われる。

## 2-2 語種による分析

ここでは、名詞、動詞、形容詞の中をさらに詳しく、和語、漢語、外来語、混種語、外国語、記号、数詞を含む語の6種に分類して、各講義と品詞毎に見ていきたいと思う。

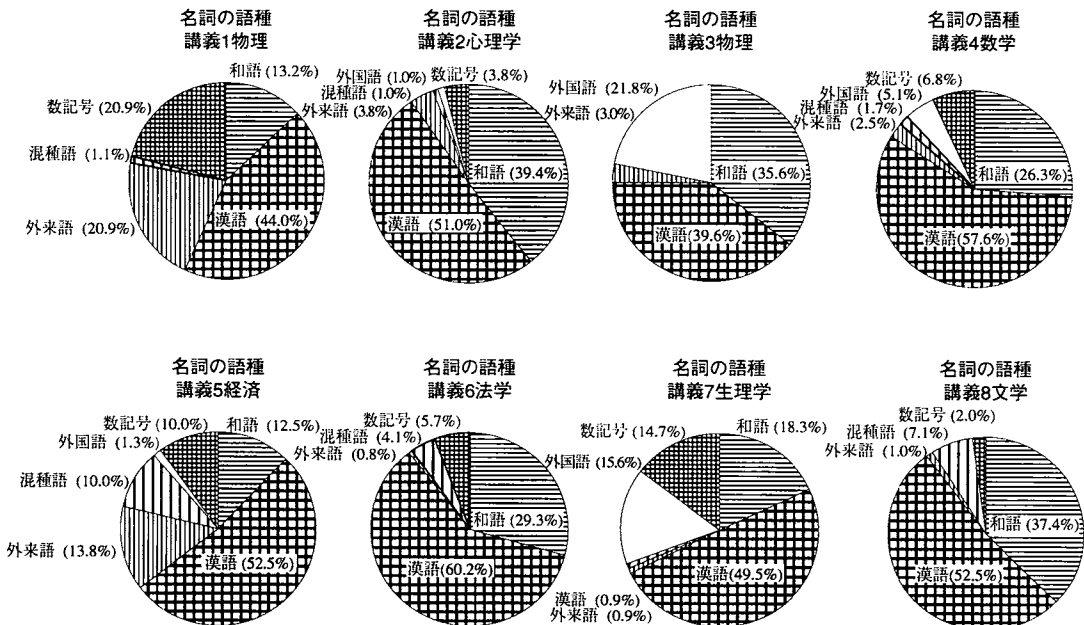
和語は平仮名か漢字の訓読みで表される語、漢語は漢字の音読みの語、外来語は外国語起源の片仮名表記の語とし、この3種のいずれかの混合を混種語とした。外国語は外国語として意識され、そのように発音されているものを、外来語と区別した。品詞毎に語種の割合を表したものが（図2）である。動詞と形容詞には、例外的に「アプローチする」と「モデル的な」という2語が見られただけで和語と漢語以外はほとんど現れない。動詞と形容詞の全体に占める割合を見ると、動詞は和語が374語中、81.8%を占め、圧倒的に和語が多い。形容詞は和語が65語中、55.4%と少し和語が多い。形容詞の例が少ないが、活用語は和語が多いと行うことができるだろう。これに対して名詞ははるかに種類が多く、漢語が和語のほぼ2倍を占めている、名詞が905語で一番数も多いので、この名詞の傾向が実質語全体の中に占める語種の割合を決定していると言することができる。

図2 各品詞の語種の内訳



実質語全体の半数以上を占め、語の種類も一番多い名詞の語種をさらに詳しく各講義毎に見てみた。(図3)のように、講義はそれぞれ名詞の構成に顕著な個性を持っていることがわかる。文科系の心理学、法学、文学が和語と漢語で89%以上を占めているのに対して、理科系の教科は、数字や記号、外国語や外来語が多く、最小で16.1%から最大で42.9%を占めている。文科系の中でも経済は、例外的に外来語や数詞が多くなっている。これはテーマが世界経済だった為に、外国の地名や年代の数字が多く、このような結果になった。講義に現れる語の種類は、教科やテーマによる差が非常に大きく、単純に一般化できないが、理科系では数字と記号、外国語などが比較的多いと言えるだろう。しかし、理科系でも、漢語が語種の第一位を占め、割合も39.6%から57.6%と大変大きくなっている。

図3 各講義の語種の割合



実質語の中では、名詞が語種に教科の特徴を反映し、講義毎に大きく違うことが認められた。また、全ての講義で漢語が第一位であり、最高では60.2%と大きな割合を占めていることがわかった。

### 2-3 語彙の難易度（レベル）

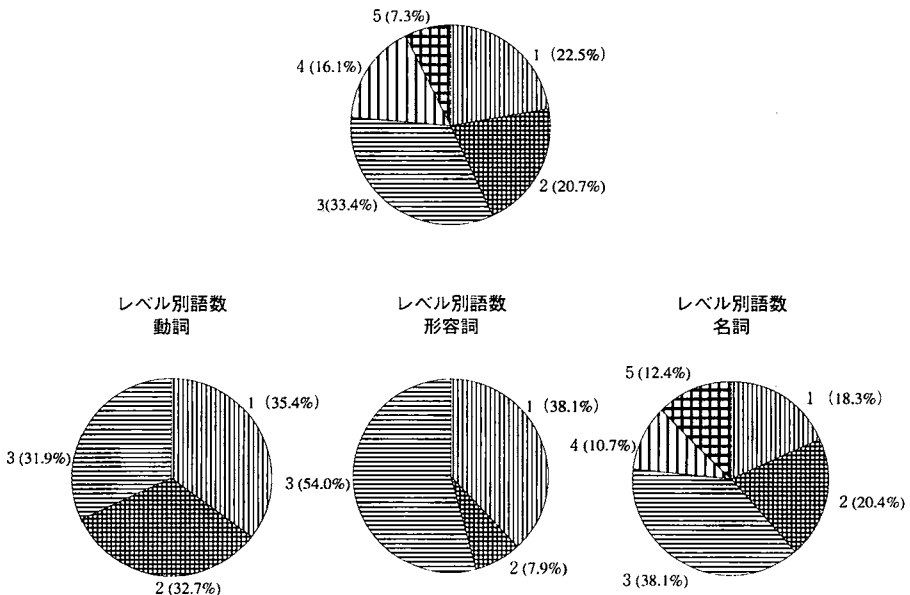
講義の難しさは語彙以外にも様々な要素があるが、文レベル以上は後段に譲り、ここでは語彙の中でも実質語に限って見てみることにする。

名詞・動詞・形容詞、3つの実質語について、どの程度の難易度の語が使われているかを客観的に見るために、二つの指標を使った。ひとつは加藤彰彦氏の「日本語教育における基礎学習語」（日本語と日本語教育 第2号）による基本学習語384語に含まれる語で、これを第一水準語（レベル1）とした。これは6種類の教育基本語彙のうちの5種以上に現れた語を集めたもので、極めて基本的で最重要と思われる語である。次に、金沢大学留学生センターで使用している初級の教科書二種類、「にはんごのきそⅠ・Ⅱ」（海外技術者交流協会）と「文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ」（文化外国語専門学校）のどちらかにある語を第2水準語（レベル2）とした。それ以上の普通語を第3水準語（レベル3）とし、専門語・固有名詞を第4水準語、5にその他（外国語・数詞を含む語・記号）として各講義と品詞毎に使われている語の水準を異なり語数で調べてみた。

専門語はその分野あるいは近接の学問分野で主に使われる語で、新聞などの一般的な記事にはあまり見られないものとした。学問の名前の「心理学」「物理学」等は一般語とし、その下位分類である「行動心理学」「プラズマ物理学」等は専門語とした。

動詞では、方言の「しとる」、縮約形の「しちゃう」「してる」、古語の「あらず」「なき」等は、

図4 各品詞の語彙の水準  
レベル別語数  
全体

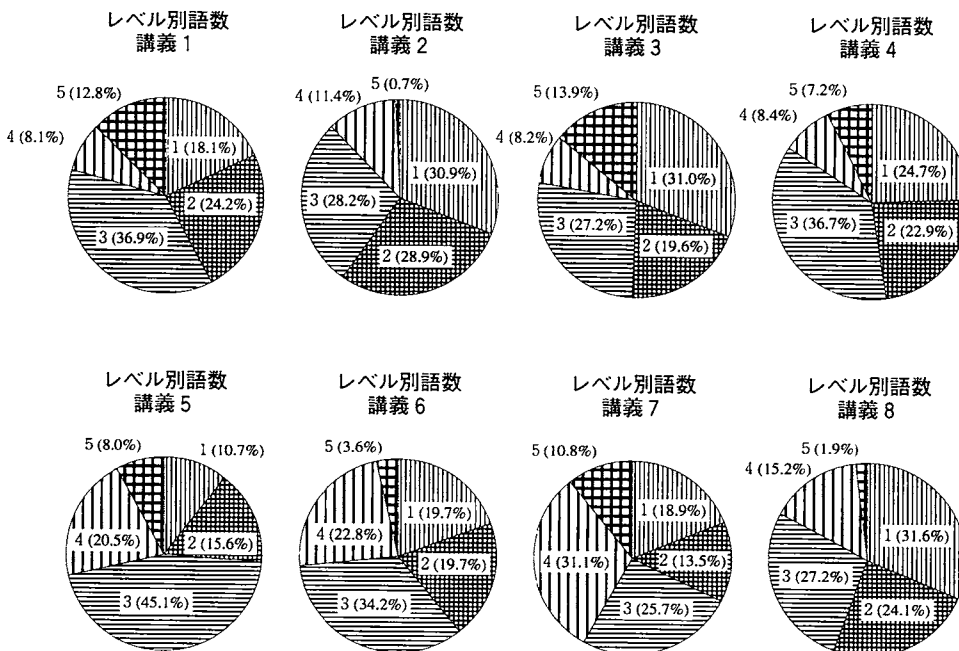


留学生が理解しにくい事を考慮して、「している」「してしまう」「ない」の水準より1段階水準を上げて数えた。補助動詞のついた「見ている」「帰ってしまう」「やってくれる」等、初級の教科書で学習する形は、もともになる動詞が第1・第2水準の場合はすべて教科書の第2水準とし、それ以上の「書き終わる」「流れ込む」等のより複雑な複合語は第3水準として区別した。調査の結果は次の通りである。

まず品詞別に語彙の水準をしてみる。(図4参照)初級修了程度の留学生は第1水準と第2水準の語は充分理解することができると考えられる。この両者を合わせて講義に登場する異なり語数のうち、動詞は約2/3の68.1%(102語)を理解することができ、次いで、形容詞の46.0%(12語)、半数程度を理解できる。形容詞の重要度が頻度の面でも名詞や動詞に比べてそれほど高くないことを考えると充分であろう。これに対して、一番出現頻度の高い名詞は、約1/3の38.7%(307語)しか理解できないことになる。登場する実質語全体の中での第1、第2水準語の割合も43.2%で半数を下回っている。

次に各講義に登場する語彙を同じ基準で調べてみた。語彙の難しさは、それだけで講義の難しさに直結するものではないが各講義の語彙の水準を比べてみると(図5)のようになる。品詞の場合と同様に第1・第2水準語を合わせて、留学生の理解可能語とし、その割合をしてみる。講義のわかりやすさを単純に理解可能語で考えると、講義2(59.8%)と講義8(55.7%)では半数を越えていて、この中では比較的わかりやすいということになる。5(その他)は水準ではなく数詞、記号、外国語など一般的な日本語以外のものであるから、母語にもよるがこれは理解可能語と考えることができる。第1・第2にその他の5を加えると、講義1(55.1%)、講義3(64.5%)、講義4

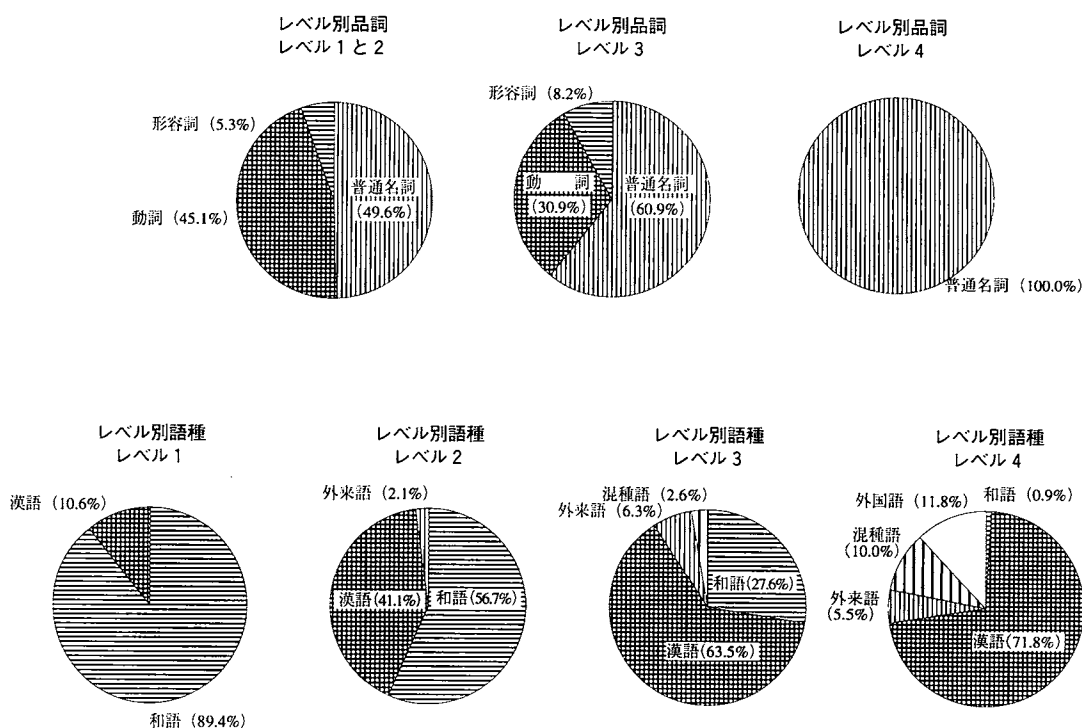
図5 各講義の語彙の水準



(54.8%) の理科系教科で理解可能語が半数を越える。その他を加えても理解可能語が半数に達しないものは、講義 5 (34.3%), 講義 6 (43.0%), 講義 7 (43.2%) である。これらの講義が理解できるかどうかは、留学生の第 3 水準語の理解力と専門語の理解力によって違う。

そこで、講義 1 から 8 の全ての第 3 水準語と第 4 水準語の品詞内訳と語種内訳を調べてみたものが (図 6) である。語彙の水準が上がるにつれて、動詞、形容詞が減って、名詞が増える。第 1・第 2 水準語では、名詞は 49.6% (112 語) ではほぼ半数であるが、第 3 水準語では 60.9% (185 語), 第 4 水準の専門語では 100% (110 語) が名詞となる。また、水準が上がるにつれて、和語が減って漢語が増える。第 1 水準で 10.6% (9 語) であった漢語が、第 2 水準では 41.1% (58 語), 第 3 水準では 63.5% (193 語) と急増し、第 4 水準の専門語では 71.8% (79 語) となる。第 4 水準では外国語も登場して語種も増えるが、和語はわずか 1 語に激減している。

図 6 語彙の水準と品詞、語種の関係



外国語は、8つの講義のうち理科系の3つの講義に見られ、特に講義7と講義3で多かった。外国語の専門語の多い科目では、専門語も多くが理解できると考えられるので、講義7の理解語に外国語の専門語を加えると、理解語が半数を越えることになる。最終的に、一番難しいものとして文科系の経済と法学が残った。どちらも専門語に複雑な漢語が多く、法学では法律の条文の古語も特に理解が難しいものと考えられる。

留学生が講義を理解する為には、専門語と第3水準語の理解力が非常に重要であることがわかっ

た。専門語は科目による語種の違いが大きく一律に教育することは難しいが、どちらも漢語の割合がきわめて高いので、漢字教育も必要不可欠であることがわかる。漢字圏の留学生のように漢字を見れば意味がわかる場合でも、講義として音だけを聞く場合には、漢字の読み方の指導が必要となってくる。第3・第4水準と次第が増えてくる外来語も日本語化した音の聴解に問題があり、留学生には難しいものとなっている。

講義の聴解は、第3水準の一般語と専門用語がどの程度理解できるかにかかっていると見える。語彙の水準が上がるにつれて、漢語や外来語など聴解面で問題の多い語彙が増えて来るのも、留学生の聴解を一層困難なものにしているといえるだろう。

#### 2-4 講義から抽出した一般語のリストと問題点

それでは次に、講義の聴解に重要な第3水準の語のリストを検討してみる。(表1・表2参照) (表1)の左側の語のうち「全体」までの上11語が2つ以上の講義に出現した語で、その下には頻度が多い順に頻度3までのものをあげてある。ある日の1つの講義の中で3回以上出現する語とは、一般性の高い語であると言うより、その日の講義の課題語である場合が多い。これらはその日のテーマによっても変わり、専門分野によっても違う。日本語教育の場でこうした語を取り上げる機会はなかなか持てないのが現状である。

上の11語に関しては、今回のように大きく離れた分野の2つ以上の講義に登場したことから、頻度が2でもこれは重要な一般語であるといえる。このような方法で、より多くの分野の講義から語彙を採集することによって、独自の、大学教育必要語リストを帰納的に作ることもできる。が、これらは見たところ、ごく一般的な中級の語彙で、これなら経験的に主観によっても作ることができると思われる。中級の読解教材で、一般的な書き言葉を教えることでこれらの語彙を教えることが可能であると思う。

注意すべき点は、通常の講義では、外国人のための語彙の選別と限定がなされていないために、類義語が多く出現していることである。「状態」と「状況」、「物質」と「物体」「もの」、「時期」「時代」「時間」「時刻」、「全部」と「全体」等。

また、漢語には同音異義語が数多くあり、講義のように聴解だけで理解する時には、大変大きな問題となる。リストにも「際」と「差異」の例が見られた。また、「わが国」と「枠組み」など聞き間違いを起しそうな具体例も見られた。さらに、第2水準までには1語も見られなかった、3字以上の漢語が、第3水準語では26.7% (36語)、第4水準では73.4% (58語)と急激に増えることが認められる。

全体的に、第3・第4水準語は書き言葉的性格の強い言葉であることがわかる。3字以上の構造的にも複雑な漢語が多く、漢字圏以外の留学生に短期間にここまでの漢字力をつけることは大変困難な課題である。こうした問題を解決する為にも、漢字1字1字の意味と造語法を組織的に教えていくことなどより一層の配慮を必要とすることを痛感した。

講義を理解するためには、初級までの語彙では不十分で、第3・第4水準の語彙力養成が必要だといえる。内容に関わるこれらの実質語は書き言葉的な性格を強く持ち、複雑な漢語の名詞が非常

(表1) 第3水準語の一覧表

状態	相手方	句切り	大爆発
下	宇宙空間	契機	中心
特徴	過失	経済路線	提訴
時代	外形	ケース	テーマ
一方	交渉	血圧	適用
我々	国際展開	血液	テクニク
立場	サミット	血液中	当時
後半	主戦場	見解	同
学問	生産計画	ゲーム	半ば
状況	制約条件	ゲーム理論	流れ
全体	卒論	現役	馴染み
作品	他	現代世界経済	何回戦
心理学	第二次世界大戦後	高温	二軍
代替案	農産物	講義ノート	ニュアンス
瀧過	背景	後者	農業貿易
ガット	比率	交渉項目	発生
権限	描写	構造	発音
転換	物質	この間	速さ
本人	物体	語	引渡し
ロケット	部分	合金	否定
条件	貿易上	サービス分野	評価
知覚	まとめ	際	表面
結果	利害	差異	ビデオ
作家	相手次第	サイコロジ	描写力
瞬間	悪意	最大化	噴射
スピード	遊び	裁定	舞台
ラウンド	圧力	昨年	ベスト
理論	意思表示	作用	別段
	一目瞭然	式	方法論
	一箇所	仕組み	貿易摩擦
	一種	資源	ボクシング
	一点	下	ボクシングリング
	一般	集合体	回り
	一般論	手法	身
	一本槍	承知	無効
	異文化間	焦点	明治
	動き	食料農産物輸入	目的
	液	新ラウンド	輸出志向
	エネルギー	心理	用事
	終わり	時刻	読み方
	海岸	実施	リゾート地
	開始	需要	わが国
	限り	情報	枠組み
	加速	スタイル	わけ
	課題	成人男子	割合
	学説	制約	
	ガス噴射	世界経済	
	記憶違い	世界旅行	
	起源	前提	
	季節	前半	
	規定	速度	
	基本問題	タイトル	
	急増	太陽電池	
	供給	戦い	
	恐縮	単語	
	近代	第一部	

\*お隣、御承知、お話 各1



(表2) 専門語の一覧表

〈専門語〉			
アプリビジネス分野	最高裁	絶縁物	物理
因子	債務者	善意無過失	プラザ合意
受け取り証書	酸素	全血	ベクトル
ウルグアイラウンド	残存輸入制限	大審院	弁済
円高経済	糸球体	体表面積	弁済者
円高ドル安経済	糸球体濾過量	多角的貿易交渉	弁済受領
音声知覚	質点系	多国籍企業	母音
感覚器官	質量	多国籍企業論	毛細血管
関数	資本主義国	但し書き	目的ガウス?
外界	資本主義諸国	代理権	輸出細動脈
ガットウルグアイラウンド	食品産業企業	代理人	輸入細動脈
ガット閣僚会議	シリコン	知覚心理学	力学
ガット体制	浸透圧	知的所有権	濾過圧
近代文学	持参人	直接投資	濾過量
技術係数	受領権限	テキスト	
経済構造調整政策	条件式	テキスト論	〈外国語の専門語〉
経済宣言	条文	東京サミット	GFR
係数	人血流	等速	amorphous
形態学	腎臓血流量	特定物	Blood
血漿	水素	同条	cc/munite
結晶	スターリングの力	内需拡大路線	FF
結晶構造	スターリングの法則	尿細管周囲毛細血管	GFR
血漿流量	製品開発輸入	農業保護貿易	glomerula filtration
行動心理学	接尾語	農産物貿易	linear
国際経済機構	線形	判定	morphology
国際農業調整	線形計画	半導体	RBE
債権	線形計画法	判例	Renal blood flow
債権者		非結晶質	RPF
			IMF

に多いことがわかった。

### 3 語彙のまとめ

- 1) 講義に現れる実質語の中では、名詞と動詞が一番多く、講義の理解の鍵を握っているといえる。中でも名詞が講義の特徴を反映し、講義毎に特に専門の語彙の語種が大きく異なる。理科系に数字や記号や外国語が多いことが認められる他は、一般的に漢語の語彙が半数以上を占めている。
- 2) 講義の実質語を難易度で見ると初級の学習者が理解できる語彙は全体の1/3から2/3ぐらいで、充分とはいえない。その次の段階の語彙は、漢語が急に増えて難易度が増す。特に文科系で、専門語が外国語ではない場合、長い漢語が多く、漢字圏以外の学生には学習の困難さが予想される。漢語の場合は同音異義語も多く、講義の聴解の場合には特に問題が多い。
- 3) 講義に現れる実質語は、講義の内容を反映して、書き言葉的な性格が強い。そのため語彙の難度もかなり高く、これを聴解で理解するためにはかなり高度の理解力が必要と思われる。初

級を終えた学習者には、読解教材による書き言葉の学習と漢字学習が不可欠といえよう。

## 4 談話及び文レベルの分析

### 4-1 談話レベルの分析

#### 4-1-1 話し言葉の要素

3で扱われた語彙は講義の書きことば的な性格にかかわるものであるが、ここでは談話としての講義の、特に話し言葉的な特徴を探りたい。まず、各講義の録音テープを書き起こしたスクリプトの中から、3で分析の対象とした実質的な意味のある語以外の要素に着目すると、次のようになる。

それでは、ええ①、前回の続きといますか①、[ ] のですね①、ええ①まあ①、やるわけですが、で①、これは具体的にはですね①、(講義1)

要するに、結晶構造ですね、結晶構造のないもの②…………… (講義3)

ある瞬間ですね、ある時間の瞬間において②…………… (講義1)

まあ、こういうような③cことをやるわけですよ③a。 (講義1)

RPじゃない④、RPFよね (講義7)

こういう状態があるわけですよ、われわれの身の回りには④。 (講義1)

けして難しいことではないと(いうことです)④。ええ、まあ…………… (講義1)

下線の要素は話し言葉的な要素で、次の4種類に分類できる。(以下、本稿では、実質的な意味のある語以外の要素で、話し言葉の特徴と言えるものを「話し言葉的要素」と呼ぶことにする。)

①フィラー

②繰り返し、言い換え

③実質的な意味がうすく、聞き取らなくてもいいもの。

④その他一言い間違い、倒置、省略

①フィラーは言葉を選んだり、文の構成を考えたりするために挿入される意味のない言葉で、(1)間投詞など一単語からなるもの(あの、ええ、ええと、その、で、ね、まあ、など)と(2)二つ以上の単語からなるもの(ですね、ですから、なんというんですかね、など)がある。フィラーの数は27~103と、講義によって差があり、使われる言葉にも個人差がある。

②講義では同じ言葉を繰り返したり、同じことを別の言葉で言い換えたりすることがある。意図的にその言葉を強調したり、説明したりする場合もあるが、単に次の言葉をさがしている場合もある。聞き手にとっては、聞き取れなかった言葉も、もう一度聞き取るチャンスが与えられるという利点でもある。繰り返しと言い換えを合わせた頻度は5~24と講義によってかなりの差がある。

①②は話し言葉のみに見られる特徴で、講義との比較のため分析した新聞記事には、当然のことながら、まったく見られなかった。

③は書きことばにも見られる語句であるが、話し言葉ではほとんど意味がなくなっている要素で、次の3つに分類できる。

a. 文あるいは節(文の構造を持ち、他の文の構成要素となっているものをここで節と呼ぶこと

にする)の終わりのほとんど無意味な表現——「わけです」「のです」など。

b. 名詞の前の「という」「といった」

c. 「という」+形式名詞「の」「こと」「もの」「ふう」「よう」

aの「わけです」「のです」は読解教材でも次の例のように扱われている。

(1) この前雨が降ったのは先月の五日だったから、ちょうど一か月降らないわけだ。

(2) 「どうして食べないのですか。」「おなかが痛いのです。」

(1)は「先月五日に雨が降った」という事実から「一か月降らない」という論理的帰結が導き出せるという用例、(2)はある状況に対する説明を求め、それに答えて説明をあたえる用例であるが、講義からの例をあげると、

(3) ……のような問題を考えてみればいいわけです。(講義1)

(4) 80年代半ばといえますのは意味があるのです。(講義15)

があるが、この「わけです」「のです」にはほとんど本来の意味がない。頻度としては11~23だが、節の数に占める割合は13.0%~26.8%と非常に高い。

bの例としては次のようなものがある。

(5) 血圧とRPFとはどういうふうに関係するかという問題 (講義7)

cの例としては次のようなものがある。

(6) a というのが否定、それから…………… (講義3)

(7) それをグロメルラ というふうに言いますね。(講義7)

以上a, b, cの要素は、無意味とは言えないが、聞き流しても、講義の内容を理解する上に支障はないものである。

④の言い間違い、倒置、省略は話し言葉の特徴とされているが、講義では非常に例が少なく、講義は普通の話し言葉とは異なることを示している。

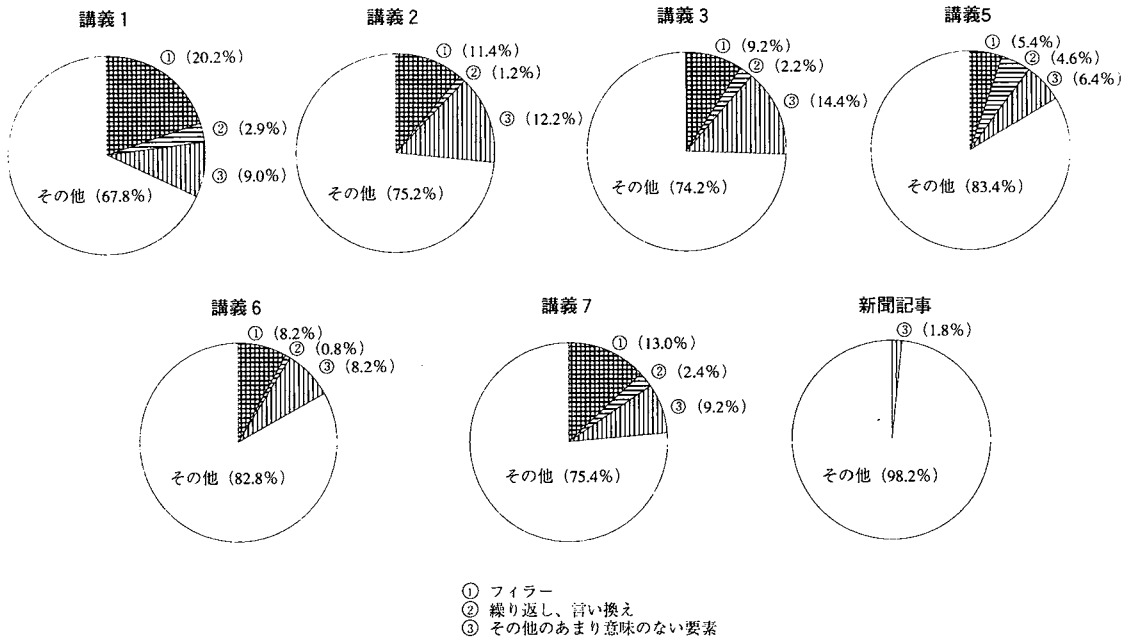
このような講義の特徴を考慮に入れ、次のAを講義風にするとBようになる。

A	⇒	B
木材は死んだ植物細胞の集まりだ。この細胞の細胞壁が硬くて丈夫なので木材は型崩れしにくく、家を建てたり、枠組みを組んだりするのに利用できる。	⇒	ええ、木材というのはですね、死んだ、その、植物細胞の集まりなんですね。で、この細胞の細胞壁、細胞の壁はですね、硬くて丈夫ですから、木材というのは型崩れしにくいということです。それで、家を建てたり、枠組みを組んだりするのに利用できるというわけです。

以上①②③の「話し言葉的要素」が講義および新聞記事でどんな割合を占めるかを図1に示す。

「話し言葉的要素」は新聞記事では③が2%弱あるのみである。それに対し講義では全体の17~32%で、個人差はあるが、かなり高い割合を占めている。これは講義が書き言葉的な内容を持ちながら、表現形式としては話されるものであるという特殊性を示すものである。また、省略や倒置がほとんど見られないことは講義が典型的な話し言葉とは異なることを示している。「話し言葉的要素」は講義内容の枠外にあるもので、講義内容を理解する上では重要度が低く、聞き流してもいい要素である。

(図1) 要素分析



「話し言葉の要素」は講義の内容を理解する上では重要ではないが、もし「話し言葉の要素」を入れずに講義が話されたとしたら、聞き取りも、内容の理解やノートテイキングもかなり難しいものになるだろう。「話し言葉の要素」が適当な割合で入っていることが時間的な余裕をつくり、聞き取り、内容の理解やノートテイキングを容易にしている。このように談話レベルで講義を考えると、「話し言葉の要素」は重要な意味を持っている。

母国語話者は講義などを聞く場合、要素の重要度によって聞き方を変えていると思われるが、留学生にとってこのような聞き分けは容易ではない。聞き取らなくても内容の理解に支障のない要素が聞き取れなかったり、理解できなかったりしたとき、そこから先に進めないということがよくある。「話し言葉の要素」としてどんなものが使われるかを教え、聞き流していけるようなトレーニングが必要である。

#### 4-1-2 文の接続関係

4-1-1で考察した、聞き取らなくてもよい要素を省いた残りの部分については、何が講義を理解する手がかりになるのであろうか。3で扱った実質的な意味をもつ語は最も重要な要素であるが、もう一つの重要な要素に談話の結束性がある。つまり、談話の中の個々の文がばらばらでなく、まとまった談話であることを保障しているのが結束性で、結束性には指示、省略、接続詞などの仕組みがある。しかし日本語の場合省略は有標なものではないし、省略された要素は聞き取りの手がかりにはなりえない。また指示詞も聞き取りの手がかりとなるほど目立つ存在ではない。したがって講義の論理展開をたどる上で最も有効な結束性は、文（又は節）の間の論理関係を明示する

接続詞、接続助詞などの接続表現であると思われる。そこで接続表現を接続関係から次の13に分類した。

- ① 条件——ば, と, たら
- ② 理由・原因——から, ので, て, その結果, ため, だから, 従って, ゆえに
- ③ 展開——すると, そこで, それで, それでは
- ④ 対比——一方
- ⑤ 解説——なぜなら, なぜかという, というのは, といいますのは
- ⑥ 逆接条件——ても, でも, ところで
- ⑦ 逆接——が, だが, しかし, けれども, ところが
- ⑧ 並列・累加——そして, それから, その上
- ⑨ 選択——あるいは, または
- ⑩ 転換——さて, ところで
- ⑪ 換言——つまり, いわば, ようするに, けっきょく, たとえば
- ⑫ 補充——ただ, ただし, もっとも, なお, ちなみに
- ⑬ 単なる接続——が, けれど

表1は各講義における接続表現の頻度を示すものである。

(表1) 接続表現

	講義1	講義2	講義3	講義5	講義6	講義7
条 件	12	2	10	1	5	7
原 因・理 由	8	2	11	2	2	1
展 開	5	7	1	4	6	1
対 比	0	0	0	0	0	0
解 説	2	0	2	2	0	2
逆 接 条 件	1	2	1	0	1	0
逆 接	8	2	3	1	4	1
並 列・累 加	2	2	5	7	4	6
選 択	1	0	2	0	3	0
転 換	0	0	0	2	0	0
換 言	5	0	2	2	4	1
補 充	0	0	0	0	2	0
単なる接続	0	14	9	2	4	11

使われる表現と数については個人差もあり、一般化はできないが、①条件の表現が理系の講義1, 講義3, 講義7で頻度が高いことは興味深い。④対比のようにどの講義にも現れなかったもの、⑩転換、⑫補充のように例が少ないものもあるが、もっと多くの講義を分析すれば十分現れ得る接続表現である。接続表現で特に注意すべきは⑬の逆接の意味のない、「が」「けれども」などで、(8)のように、単に文を続けるために使われている。

(8) あまりなじみのない言葉かもしれませんが、ええと、英語では、perceptionですね。(講義2)

⑬に属するものは聞き捨てにしてもよい表現で、それを聞き分ける耳を養うことも必要だろう。

このような文と文の意味的、論理的つながりと、実質的な意味を持つ語との両方を有機的に結びつけて、講義の流れを理解していくと考えられる。実質語も、接続表現もどちらの要素もすべて理解できれば理想的であるが、どちらかに聞き取れない、あるいは未知の要素があっても、他の要素を手がかりに講義の流れについていけるようなトレーニングも必要だろう。

我々は長い談話を聞くとき、必ず先を予測しながら聞いている。その予測のメカニズムに関与するのは、実質語の意味と、接続の論理的関係であろう。この2種類の要素の組合せが次の文のとり得る意味的範囲を制約しながら文が連続していくと考えられる。例えば、

(9) このMTがわからない限りですね、問題は解けないような気がしてしまうわけです。ところが、……………（講義1）

(10) 持参人は弁済受領の権限あるものとみなす。ただし……………（講義6）

(9)は「問題は解けない」という予想とは反対の結論であることは「ところで」で予測できる。また、(10)の「ただし」で、前文の原則には例外があることが予測できる。

#### 4-2 文レベルの分析

聞き取りの難易度を左右すると考えられる、文の長さ、文構造の複雑さ、話すスピードについて以下に考察する。

##### 4-2-1 文の長さ

話し言葉は書き言葉に比べて、一般的に文の長さが短いと言われているが、講義についてもこの特徴があるかどうか見てみた。文の長さを一文（構文的、意味的に書き言葉の一文に相当すると思われる文節の集まりを一文とした）を構成する文節の数によって計ったところ、1文節という短いものから、73文節という長いものまであった。新聞記事では、7~28文節で、大体は15~20ぐらいに集中していた。この結果から、文節数の多い長い文は新聞より、講義のほうに多いことがわかる。講義は書き言葉をもとにして、あまり意味のない話し言葉的な要素を加えたもので、そういう要素がまったくない新聞記事との相違を示しているものと思われる。しかし講義の中の長い文をよく見ると、

(11) [節]ですけれども、[節]ですけれども、[節]ですけれども…。 （講義6）

この例は逆説の意味のない「ですけれども」でつながれており、実際には4つの文とっていい。実際にテープを聞いてみても、長い文だからといって、理解しにくいということはなかった。これは「ですけれども」を聞き流し、実質的な意味のある部分だけを聞き取っているためであろう。実際、聞き取る上で「……ですが……。」と「……です。しかし……」は区別されないであろう。したがって、講義では、長い文も多く見られるものの、文の長さは聞き取りの難易度に必ずしも関係しないと考えてよいだろう。

##### 4-2-2 文構造の複雑さ

講義の文構造の複雑さを見るため、節を、構文及び意味的視点から、①等位節、②副詞的従属

節, ③引用節, ④間接疑問節, ⑤連体修飾節, ⑥名詞節, の6種類に分類し, 講義と新聞記事で一文がどんな節から構成されているかを表2に示した。節の種類別頻度は表3の通りである。節の数が多き文では等位節がいくつかあることが特徴で, 実質的には見かけほど複雑な文ではない。新聞記事は連体修飾節が多く, しかも2重, 3重に節が埋め込まれているものもあり, 書きことばの文構造が複雑であることを示している。講義にも講義6のように連体修飾節が多いものもあるが, これは講義中, 法律の条文が何度か引用されていたため, 書き言葉の特徴が強く出ているものである。

(表2) 文の構造

講義 1	講義 2	講義 3	講義 5	講義 6	講義 7	新聞
1 M(13)	1 C1111111NMN(71)	1 SSM(22)	1 Q(11)	1 (3)	1 C(24)	1 S(7)
2 S(12)	2 CQ(20)	2 CSCC(36)	2 SQ(6)	2 (2)	2 C1N(12)	2 (S)N(M)M(16)
3 1SCCS(33)	3 QCNC(18)	3 CMSSSMC(57)	3 (2)	3 (8)	3 (8)	3 (M)(C)(M)M(19)
4 MS(17)	4 (4)	4 SC(13)	4 CC(20)	4 (2)	4 CSS1(37)	4 MSSC(19)
5 CQQ(22)	5 CC111NM(31)	5 MCS(14)	5 C(7)	5 N(7)	5 Q(4)	5 CMC(19)
6 SS(7)	6 S1CSQ(25)	6 SQCSSCQCNCM(54)	6 (8)	6 NSCS(16)	6 QCQ(16)	6 MNCC(M)M(16)
7 S(13)	7 M(16)	7 CMM(46)	7 N(14)	7 (2)	7 (14)	7 MCI(18)
8 Q(11)	8 CMMSCMNCMS(73)	8 MCMCQC(48)	8 (6)	8 MMSMM(25)	8 S(16)	8 CMN(17)
9 QC(53)	9 MN(9)	9 C(15)	9 MCN(15)	9 (10)	9 (4)	9 QCN(15)
10 SQ(14)	10 MN(16)	10 SCMSN1CCM(64)	10 (10)	10 MM(11)	10 (1)	10 MM(8)
11 Q(16)	11 CSMN(35)	11 I(9)	11 MNNM(22)	11 CCM(23)	11 SCCSCC	11 CM(14)
12 (11)	12 M(15)	12 NSC(20)	12 CMQC(33)	12 MMMQM(21)	12 SMM(36)	12 M(14)
13 C(10)	13 M(13)	13 MNSCCCCM(55)	13 MM(21)	13 Q(7)	13 N(5)	13 S(9)
14 M(18)	14 NSM(18)	14 S1(14)	14 CCM(22)	14 CCQM(24)	14 (12)	14 S(9)
15 Q(15)	15 M(16)	SCMS	15 MN(24)	15 MM(17)	15 CMCSM1DC(35)	15 NM(18)
16 (8)	16 (3)		16 CM(8)	16 CCMQMN(25)	16 C1C(15)	16 MCM(17)
17 C(15)	17 (9)		17 CCMM(29)	17 QMNSQCQNC(33)	17 M(7)	17 MS(12)
18 (14)	18 CM(17)		18 (2)	18 Q(5)	18 S1(7)	18 Q(6)
19 (15)	19 QCCQ(27)		19 C(11)	19 MCSMN(34)	19 C(19)	19 (5)
20 S(11)	20 CN(23)		20 (6)	20 S(9)	20 (5)	20 SMCNSN(28)
21 SC1CM1(43)	21 CC1C(18)		21 MMC(28)	21 (8)	21 QCM(63)	21 NSN(16)
22 (6)	22 MN(17)		22 M(10)	22 MCNCMCN(22)	22 (26)	22 SMMSM(23)
23 (8)			23 CMN(14)	23 Q(7)	23 C(9)	23 MNNM(20)
24 S(11)			24 (8)	24 CS(11)	24 S(10)	24 MMC(19)
25 I(14)		凡 例	25 MCM(34)	25 S(8)	25 (30)	25 C(8)
26 (14)		C 等位節	26 (5)	26 S(14)	26 (12)	26 (14)
27 SSSS(35)		S 副詞的従属節	27 (7)	27 SN(13)	27 1M(10)	27 MC(M)(M)M(19)
28 S1(16)		Q 引用節	28 (5)	28 (2)	28 (20)	28 SM(10)
29 CQS(23)		I 間接疑問節	29 CNC(33)	29 MMSM(32)		29 M(5)
		M 連体修飾節	30 M(12)	30 (7)		30 CN(13)
		N 名詞節	31 (7)	31 M(9)		31 CQS(C)M(22)
		( ) 内は文節数	32 MCN(28)	32 (4)		32 CS(16)
				33 M(9)		
				34 (5)		
				35 MSM(10)		
				36 CCQ(2)		
				37 Q(5)		
				38 S(11)		

(表3) 文の構造(節の種類)

	等位節	副詞従属節	引用節	間疑問節	連体修飾節	名詞節
講義 1	9	15	8	3	6	3
講義 2	24	7	5	6	20	9
講義 3	26	18	3	3	17	3
講義 5	20	2	3		21	8
講義 6	13	13	13		33	8
講義 7	17	8	4	6	8	3
新聞	21	15	4	1	36	11

#### 4-2-3 話すスピード

講義が話されるスピードはどの程度かを見るため、5分間に話される文節の数を講義とテレビ・ニュース(NHKテレビ7時のニュース)で比較した。結果は表4の通りである。ニュースに比べ講義はどれもスピードは遅いが、講義によっては225~388文節と差がある。文節数が多いものほどフィルターが多いという傾向が見られた。ゆっくり言葉を選んで話すスピードの遅い講義ではフィルターなどが少なくなる傾向があるのかもしれない。いずれにしても講義はニュースよりかなりゆっくり話され、重要性の低い要素が占める割合が多いことを考慮すれば、実質的な意味のある要素の話されるスピードはさらに低いと言える。

(表4) 話すスピード

	講義 1	講義 2	講義 3	講義 5	講義 6	講義 7	ニュース
文節数	388	285	385	225	311	330	437
フィルター	103	57	46	27	41	65	

## 5 談話及び文レベルのまとめ

### 5-1 談話レベル

1. 講義には実質的な意味がある書き言葉の要素のほかに、「話し言葉的要素」が見られることが特徴的で、これが講義全体の17~32%を占めている。このような「話し言葉的要素」は実質的な意味がほとんどなく、聞き取らなくても講義の理解に支障がないものであるが、聞き取りやノートテイキングを容易にするという利点もある。
2. 講義を聞き取るためには、実質的な意味を持つ言葉を理解し、さらに言葉の意味と接続表現から論理的な流れを予測することが重要である。

### 5-2 文レベル

1. 講義には長い文も見られるが、文の長さは聞き取りの難易度には必ずしも関係しないと考えられる。
2. 講義の文構造は、新聞記事など書きことばほど複雑ではない。
3. 講義が話されるスピードはテレビ・ニュースにくらべてかなり遅い。



以上の分析結果から、講義の聞き取り指導には、実質的に意味のある要素とそうでない要素を聞き分けたり、接続表現や実質的な意味のある言葉から論理の展開を予測するなど、聞き取りのストラテジーを教えることが必要であると考えられる。また文構造は書き言葉の読解で、講義のスピードについていく能力はニュースの聞き取りなどで養成できると考えられる。

## 6 おわりに

今回収録した講義の数は限られてはいたが、その分析結果から、講義の特徴を知ることができ、講義を聞くための指導にはどんな点に留意すればよいかについての示唆が得られた。今後の課題は、各分野にわたりさらに多くの講義を収録することにより、分析結果の普遍性を高めることである。また、聞き取り上の問題点を探るためには、実際に留学生に聞き取りの実験を行いその結果を分析することも必要であろう。

最後にお名前をあげることは差し控えるが、講義の収録に快く御協力くださった金沢大学の先生方に心からお礼申し上げたい。

### 参考文献

- (1) 加藤彰彦 1963「日本語教育における基礎学習語」『日本語教育 2号』 日本語教育学会
- (2) 加藤彰彦 1990「教育基本語」『講座日本語と日本語教育 第7巻』 明治書院
- (3) 池上嘉彦 1983「テキストとテキストの構造」『談話の研究と教育Ⅰ』 国立国語研究所
- (4) 寺村秀夫 1981「日本語の文法 下」 国立国語研究所
- (5) 佐久間まゆみ 1990「接続表現」『日本語の文章・談話』 桜楓社
- (6) 横林宙世ほか 1988『接続の表現』(外国人のための日本語例文・問題シリーズ6) 荒竹出版
- (7) 重松 淳ほか 1988『講義の聴解指導』『日本語教育 64号』 日本語教育学会